

経営協議会の学外委員からの意見を参考にし、
法人運営の改善に活用した主な取組事例

岐阜大学

意見	本学の取組事例
<p>応用生物科学部の一般選抜前期の倍率が低くなっているため、方策を検討すべきである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課程の名称を変更 (「食品生命科学課程」→「応用生命科学課程」) ・大学院応用生物科学研究科の専攻名も変更 (「資源生命科学専攻」→「応用生命科学専攻」)
<p>大学の差別化・個性化を図ることが必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経営戦略、教育研究に係る将来構想、大学改革等について、企画立案を行うことを目的に、学長戦略室を設置。
<p>資金運用についての責任・範囲等を明確化するべきである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運用の対象となる金融商品を明確化し、資金運用方針の中に明記。
<p>管理職手当受給者に対する入試業務手当の支給については、検討すべきである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職手当受給者に対する入試業務担当手当は、支給を中止。
<p>獣医学部・学科の整備強化を図るべきである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取大学と将来構想を協議し、共同獣医学科を設置。 ・附属共同獣医学教育開発推進センターを設置。 ・鳥取大学と岐阜大学との間でインターネットを活用した遠隔教育を行い、大学の枠を超えた教育を充実。
<p>教員養成の質向上のためにも、改組により、教員の意識、取組方を変える必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の資質向上のための教育力を「設計する力」「促進する力」「対応する力」「向上する力」の4つの要素を設定。 ・教育力向上に資するため、担当する授業の工夫点や今後改善方策などを記す「リフレクションペーパー」を導入。